

平成30年4月19日
(資料提供)

(事務担当)
所属名：農林総合研究センター
農業試験場 総合研究部
病害虫防除室
直通：257-6972

平成30年度病害虫発生予報第1号について

今後発生が予想される、水稻、麦類、大豆、果樹、野菜・花きの病害虫の発生量や防除上の注意事項を掲載する。

1 予報期間 4月下旬～5月中旬

2 予報内容

(1)水 稲

イネミズゾウムシの発生はやや多と予想される。箱施薬していない圃場では、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

イネドロオイムシの発生はやや多と予想される。箱施薬していない圃場では、1株当たり1卵塊以上認められる場合には、直ちに防除する。

(2)麦 類

大麦赤かび病の発生はやや少と予想される。出穂前後の降雨は発生を助長するので、出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除を実施する。

(3)大 豆

ネキリムシ類の発生は多と予想される。は種時の防除を徹底する。

タネバエの発生はやや多と予想される。は種時の防除を徹底する。

(4)果 樹

なし黒星病の発生はやや多と予想される。発生初期の防除を徹底する。

なし黒斑病の発生はやや多と予想される。袋かけ前の防除を徹底する。

かき炭疽病の発生は平年並と予想される。孢子飛散は4月下旬からと予想される。発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ハダニ類の発生はやや多と予想される。抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(5)野 菜

ネキリムシ類の発生は多と予想される。は種時又は定植時の防除を徹底する。

コナガの**発生**はやや多と予想される。早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

※病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。